



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

2004.12.8 (No.2344)
週報 No.17

第2560地区ガバナー / 横山 芳郎
会 長 / 渡邊 喜彦
会長エレクト / 小越 憲泰(クラブ奉仕A)
副 会 長 / 渡辺 勝利(クラブ奉仕B)
幹 事 / 五十嵐 寿一
S A A / 船越 正夫
会 計 / 荻根澤 隆雄

例会日 / 毎週水曜日 12:30 ~
例会場及び事務局 /
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
例会場 / TEL 34-3311
事務局 / TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-ss@web-niigata.ne.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(~はshiftを押しながら“へ”のキーを
押ししてください)

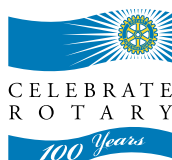
本日の出席会員数: 68名中50名
先々週出席率: 84.62%

【ゲスト】

・ 柏崎トルコ文化村 代表 土田新吾様

【先週のメイクアップ】

- [12.1] 新井へ
・ 加藤紋次郎さん
- [12.6] 三條南へ
・ 斎藤弘文さん
- [12.7] 三條北へ
・ 吉井俊介さん
- [12.7] 直江津へ
・ 加藤紋次郎さん



「ロータリーを祝おう 100年の歩み」
2004~2005年度国際ロータリーのテーマ



山茶花

会 長 挨拶

渡邊喜彦会長



みなさんこんにちは。本日は柏崎トルコ文化村代表土田新吾様、お忙しいところ卓話をお引き受けくださり、ありがとうございます。よろしくお願いたします。

さて、先日発生しました奈良県での幼児誘拐殺人事件が未だに犯人の絞り込みができず苦慮しているようでございます。そんな中で犯人から、挑戦状とも思われる手紙が来ているとのニュースがありました。

私は、最近の警察業務でのあり方に大変疑問と将来への憂慮をしております。それは、こういった凶悪犯罪に対するわが国の検挙率の低下と、日本という平和で秩序ある国が何故こんなに墮落し、平和を保てない国になってしまったのか、という素朴な疑問です。

大きな観点から我々はそれを真剣に論じ、徹底的に検討審議し、国の大改革を行わなければならないと思います。いま、わが国民は平和ボケし、外国のいろいろな国に馬鹿にされ、内政まで干渉されているのに反論も、しかるべき決断もできない、はなはだ情けない状況に陥っております。

昨日も、ある会議で本寺小路に行きました。道路のあちらこちらに違法駐車車両がところ狭しと並べられ、通行する車両がその間を縫って通らなければならないような状況にあります。そしてそれらの車は飲酒したドライバーが、また夜の勤務を終えた方々が運転し帰宅するという実態に、警察当局はなにをされているのでしょうか。いちいち苦情を連絡しなければ動かないという実態。こういうことが全て犯罪検挙率の低下という結果を生み出しているのではないのでしょうか。

今、一ノ木戸商店街は街の活性化のためアーケードの改装工事が始まりました。少なくとも、そういう工事期間中くらいは道路が狭くなるので絶対駐車車両は無くし通行に迷惑をかけない、という強い町内事業者の方々の決意と展開がなけ

ればならないのではと思います。人に迷惑をかけながら事業が繁栄した例は無いと私は思います。

事業経営を行うには、まずその経営者の経営哲学、理念というものが最も大切であると思います。

今こそ、日本国民全体でその辺の基本中の基本を改めて学びなおし、自己改革してゆかねばならないと思う次第です。昨日私の手元にPHPさん発行の来年の新刊が届きました。本の題は「2005年トップが綴る 仕事の指針 心の座標軸」というものです。私も寄稿を依頼され70頁の処に私の思いを寄稿させていただきました。この本を読んでいただいた人たちが少しでも私の心を受け、一人ひとりがわが国の改革に取り組んでもらえればと思っております。

以上で本日の会長挨拶を終わります。

幹事報告

五十嵐寿一幹事

いからしの里より

クリスマスサンタクロースの依頼がとどいております。

と き 12月22日(水)PM 1:45 ~

ところ いからしの里

会長、幹事、社会奉仕委員会の方々に当日出席をお願い致します。



新会員紹介



名 前	若 槻 八 十 彦
生年月日	S28. 5. 21
会 社 名	若槻石材
役 職	専務取締役
趣 味	詩吟、書道
家族構成	父、妻、三女

ニコニコBOX

渡邊喜彦さん

本日、中越地震の義援金の協力をお願い致しますので、よろしくお願い致します。社会奉仕(委)に担当していただきます。

本日は入会の若槻さん、ありがとうございます。又、トルコ村代表の土田さん、卓話ありがとうございます。

五十嵐寿一さん

土田新吾様、卓話ありがとうございます。

船越正夫さん

柏崎トルコ文化村代表の土田様、卓話ありがとうございます。

樺山 仁さん

土田新吾さんの卓話を楽しみにしております。

会田二郎さん

土田様、卓話ありがとうございます。

山田富義さん

土田さん、卓話ありがとうございます。

若槻さん、入会歓迎します。

石塚欣司さん

本日の卓話、楽しみにしております。

杉山幸英さん

若槻さんの入会を歓迎致します。

土田様、卓話を楽しみにしております。

五十嵐昭一さん

若槻八十彦新会員の入会を歓迎致します。

熊倉昌平さん

若槻さんの入会を歓迎して。

丸山行彦さん

新入会員の若槻さんを歓迎します。

永井敏行さん

今回で3回目になります。明日は天気が良さそうなので、今年最後のゴルフに行きたいと思います。

佐藤 武さん

孫が生後2ヵ月と3日、頬が少し泣き顔と異なる動きをしました。生後の初笑いかな。

松永一義さん

よいことがありました。スマイルボックスに協力いたします。

伊藤寛一さん

よいことがありました。スマイルボックスに協力いたします。

荻根澤隆雄さん

暮れの大掃除、いろんな意味でキレイになればと願っております。大変な年でした。

早川昭雄さん

今日12月8日は太平洋戦争の始まった日です。私が小学校6年生の時でした。

12月8日分 ￥ 17,000

今年度累計 ￥ 404,000

卓 話

柏崎トルコ文化村代表 土田新吾殿(米山観光社長)



私の本業は米山観光、柏崎鮮魚センターの社長をやっています。

柏崎トルコ文化村は、故大森頭取が投資してできたものですが、70億もの過大投資67ybnで、とても成り立つ事業ではありませんでした。経営破綻をしたとき、柏崎市民も経済界の方も、もめました。

しかし、柏崎の観光の中心地なるものを荒廃の地にするには忍びないということで、企業が中心となり第三セクターとして立ち上げようとしたのですが、議会で大反対にあい白紙になりました。その後、議会から、柏崎観光産業振興協会の会長をしている私のところへ、観光業者を中心として、何とかならないかという話が出ました。一旦、議会で否決されたものは、同じ議題にできないということで、やり方を変えて検討し、最終的には大変安い値段で柏崎市が買い取り、その代わり施設の運営は、民間企業の経営者が会社を作り、運営するという合意され、行きがかり上、私が社長をさせていただきました。ですが、現在は、先般の大地震以降、閉鎖状態にあります。

なぜ、一旦駄目になった施設を興そうとしたのか、同じ道を十分察知しながら、なぜ営業を再開したかということ、日本とトルコとの関係も含めお話ししたいと思います。

以前、非公式ではありましたが、議会で、トルコ文化村を維持したいという意見がありました。柏崎トルコ文化村は、柏崎市にとって中心地であり、柏崎コレクションビレッジといって、展示館などがたくさんあり、その中間地点で、3万坪以上の土地であり、利益が出ないまでも、公園にしてはどうか、という意見がありました。また、歴代のトルコ大使が柏崎トルコ文化村の名誉村長となっています。トルコ政府から、トルコ建国の父、ケマル・アタチュルクの銅像も寄贈されました。大変大きなものでして、アタチュルクといいますが、トルコでは日本の天皇陛下以上の尊崇を集めていらっしゃる方です。そういうものが、日本の田舎の柏崎トルコ文化村に寄贈されているという事実は、大変重みがあると思っております。そういう中で、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、昨年は、日本トルコ年ということで、フジテレビ系列の「ビートたけしのアンビリバボー」、NHKの「プロジェクトX」で、日本とトルコとの関係が放送され、また今年、アリス館から、「救出 日本・トルコ友情のドラマ」という子供向けの本が出版されました。その本は、文部科学省から小学校高学年向け読書感想文の課題図書に推薦され、全国の小学校に配布され、日本とトルコとの関係を知る機会が増えました。

日本とトルコとの関係は、1800年代に始まります。1890年に、和歌山県串本大島沖にトルコ軍艦エルトゥールル号が沈没しました。乗客は604名といわ

れていました。助かったのは69名。当時大島の島民が必死に救助し、遺体も丁寧に弔いました。当時、日本は大変貧しく、村の金庫の金を全部使って助けました。今回の7.13水害、10.23の中越地震で、ボランティアの方が出られましたが、大島の島民のように自分の生活を削ってまで救出するということは大変なもので、なかなか出来ることではありません。大島の人々は、冬場の食糧難の時代、島の鶏を全部つぶして避難民に与えたそうです。助けられた方は、日本の軍艦二隻でトルコに送り届けられました。この事実が明治天皇のお耳に入り、天皇から見舞金が出されましたが、そのお金を義援金として、生き残ったトルコの方々に差し上げたそうです。さらに、新潟県の隣県群馬県沼田のご出身で、お茶の宗徧流第八世家元、山田寅次郎が義援金を集め、トルコに持っていったという美談がありました。

この事件の4年前、1886年に和歌山沖で、ノルマントン号事件がありました。イギリス貨物船ノルマントン号が難破・沈没し、この際、イギリス人乗員はボートで逃げましたが、日本人とインド人同乗者はボートに乗ることができず全員遭難死しました。これに対して、日本政府は抗議を申し込みましたが、当時、不平等条約が結ばれていて、まったく通用せず、遺族に対して1円の保証もありませんでした。このような事件が、同じ和歌山県沖で、エルトゥールル号事件のわずか4年前に起きています。大島も船乗りがいて、その事実を知りながらエルトゥールル号の被害にあった人を助け、亡くなった人の弔いに精力をあげました。現在、和歌山県串本町には、殉死した乗組員の記念碑があり、そこを毎年大島の子供たちがきれいに掃除をしています。何年かに一度、トルコ海軍の大使がおいでになり盛大な式典をやっています。

1985年イラン・イラク戦争がおこりました。当時のイラクのフセイン大統領が48時間以降イランのテヘラン空港を通過する飛行機は、軍用機、民間機を問わず航空機を撃ち落とすと宣言しました。テヘランには、たくさんの外国の方が残っていました。各国も最少限の人を除いて、自国に帰る段取りをしていました。日本も政府内で議論し、飛行機を出そうとしましたが、最終的に身の安全が保障されないということで、日本人救出のための飛行機を出すことを諦めました。その時点で、二百数十名の日本の方がテヘランにいましたが、外国の駐在員の方は、大体、丘の上の高級住宅街で、政府高官なども住んでいる危険な場所でした。かなりのパニック状態で、特に商社などは、割と若い方を派遣されていますので、若い奥さんと赤ちゃん、小さなお子さんがいたという状況だったわけです。日本政府は、なんとしても助けたいと思い、ドイツ・フランスに問い合せても、自国民もしくは、当時のEUの人優先でした。ですので、日本の二百数十名の帰る目処がまったく立ちませんでした。このとき、当時の野村大使が、当時、伊藤忠商事イスタンブール支店長の森永 堯(もりなが たかし)さんと、時のトルコ首相トウルグット・オザール氏と親交があるので、何とか助けてもらえ

るよう話をしてもらえないかと頼みました。考えてみれば、戦争の当事国であるイランにお願いするのが筋ですが、第三国のトルコに救助をお願いするのは難しい。森永さんは、万が一、何か問題があった場合、政治的にも非常に難しい立場になると躊躇しますが、待たななしということで、政府から矢のような催促がありました。意を決した彼は、オザール氏にお願いをしました。数時間後、オザール氏から承諾の連絡を受け、限界ぎりぎりにトルコ航空機2機が日本人を全員救出しました。当時の新聞にちゃんと載っていましたが、このことがどんなに大変なことだったか、あまり日本人は理解していなかったようです。ですので、トルコは経済援助をしてもらいたかったのではないかと、というところでもない無礼な、見当違いなことを書いた新聞もありました。

実はこの時、イラク国内に6,000人強のトルコ人が残っていましたが、運良く陸路でトルコに帰ることが出来たそうです。この事件で、オザール氏は、マスコミ、世論、野党からも非難されなかったそうです。もしこれが日本で起こったら、大変なことになります。それだけトルコという国が、わが国の国民のために救出活動をやってくれたという事実を、是非知っていただきたいと思います。また、今年の4月、イラク人質事件で日本人3人が拉致されました。結果的に救出されましたが、エルドアン首相が当時日本を訪問しており、トルコ政府は国を挙げて救出すると言ってくれました。一国の首相が、特別な関係のない、日本の拉致被害者を、国を挙げて救出する、ということはなかなかありません。そういう意味で、日本とトルコとの関係は大変なので、この友情は大切にしなければならぬと思いました。これを考えると、柏崎トルコ文化村は民間が作った施設かも知れませんが、あれだけの施設ですので、莫大なお金をかけるのではなく、何とかならないだろうかというのが私の考えです。経済人としたら、とんでもない代物で、苦労するわけですが、私は、トルコ文化村を何とかしたいということで、立ち上がったわけです。

まだまだ、トルコには我々の分からないことがたくさんあります。食べ物でも、世界三大料理といわれ、中国、フランス、トルコがそれぞれですが、実は、フランス料理のベースになっているものが、トルコ料理といわれています。そういうことを考えますと、なんとか柏崎トルコ文化村を維持していただきたいと、現在も色々な方を通じて、外務省、トルコ大使館、あ

るいはトルコ本国の日本トルコ文化センターの所長さんなどに声を掛けている最中ですが、大変厳しく、単なる経営のレベルで見ると、終わりにしてもいい施設かもしれませんが、是非皆さん一度ご覧になっていただきたいと思います。あれだけのものでは、何とかしなければいけないと思っていただけだと思いますので、ご覧いただければありがたいと思います。

皆さんも、色々な場面で、ボランティアにかかわっていらっしゃると思いますが、幸か不幸か、私のモットーは「気付いたものが当事者」でありまして、掃除係がいましても、ごみが落ちていたら、社長でもひろうのが当然だという考え方でございます。皆さんもそうだと思いますが、たまたま、運がいいのか悪いのか、一番初めに気が付いた人間の一人だということで担当させていただいております。今後ともよろしくお願いいたします。

何んでも エトセトラ 私の散歩道

あなたの生まれ月の色は？ 江戸時代末期の各月の色

- 1月 おもいにくれない 想紅。一面の雪景色、雪の下に咲く一輪の寒椿。かんづばき
- 2月 恋待ち蓄。土から顔を出した路の臺はうぶ毛があつて白っぽい。
- 3月 夢宵桜。春霞にかすんだ遠くの山に咲いた桜、白ともピンクとも。
- 4月 花舞い小枝。若い枝の色。
- 5月 初恋薊。青紫系統の紫。あざみ
- 6月 憧れ葛。青梅の緑。緑青の色。あこがれ かつら
- 7月 咲き初め小藤。淡い藤色。
- 8月 夢見昼顔。淡いローズピンク。
- 9月 恋路十六夜。山葡萄のような深い藍色。銀の月が出れば、まさに恋路十六夜。
- 10月 想われ紫苑。赤紫。
- 11月 恋染め紅葉。紅と朱を混ぜた色。
- 12月 忘れな重。ブルーグレー。青みがかったグレー。夕方の雪の色。すみれ

なんとしゃれた呼び名であることよ。
(浅草 文扇堂 荒井修氏の講演記録より)

次週例会 12月22日 夫人同伴クリスマス例会
於 越前屋ホテル

次々週例会 12月29日 休 会

